



じゃがいもずきん
「ききぼう」くん

暴風雪による被害は、晴天から悪天に急変したときに多く発生しています。テレビなどで悪天が予想されていることを知ったときは、今の天気が悪くても油断することなく、最新の気象情報や道路情報などを事前に確認しましょう。暴風雪が予想されているときは、外出を控えることが1番良いですが、万が一外出時に暴風雪に遭遇してしまったときの対処法をご紹介します。

歩行中や屋外で作業中のとき

視界不良(ホワイトアウト)により方向感覚がなくなり、自分の位置がわからなくなることがあります。

- 近くの商店・コンビニエンスストア、人家など、建物の中の安全な場所へ避難。



- 肌の露出を少なくし、体温の低下を防ぐ。
- 歩行中は飛散物に注意。

車を運転しているとき

運転中に暴風雪となり視界が悪くなったときは、そのまま運転を続けるのは大変危険です。

- 道の駅、コンビニエンスストアなどで天気の回復を待つ。
- 気象情報や道路情報を確認する。
- 気温が低く風が強いと、視界が悪くなる。

気温が低く風が強いと、雪面の雪が目の高さ以上に吹き上げられるようになり、これを高い地吹雪と呼びます。高い地吹雪では、自動車の目線の高さ1.2mを越えて雪が舞うようになるので、ドライバーの視界を奪い、厳しい視程障害をもたらす場合があります。



緊急時の連絡先

車の故障・レッカー移動

● JAFロードサービス救援コール

☎ 0570-00-8139 ※1

または #8139 (短縮ダイヤル) ※2

車の事故、人命救助の要請など

● 警察 110 ● 消防 119

道路情報

● 日本道路交通情報センター

☎ 050-3369-6601

または #8011 (短縮ダイヤル)

※1: 通話料は有料(固定電話は1分/11円、携帯電話は20秒/11円)。ただし、一部のIP電話などからはご利用になれません。

※2: 通話料は有料。ただし、固定電話(ダイヤル回線)および一部のIP電話などからはご利用になれません。

家の中にいるとき

F F式暖房機などの給排気口が吹きだまりでふさがれると一酸化炭素中毒を起こす可能性があります。

- 給排気口がふさがれていないか確認する。
- 出入口を確保するため、吹きだまりの状況を見て除雪する。

車が立ち往生したとき

立ち往生をしてしまったときは、後続車から追突されないようにしてください。

- ハザードランプを点滅、停止表示板を置く
- J A Fなどのロードサービス、近くの人家、警察・消防に救助を依頼

車内で救助を待つとき

排気ガスによる中毒や低体温症に十分注意が必要です。

原則エンジン停止

一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを切ることが大切です。防寒着や毛布、新聞紙などで体温の低下を防ぎましょう。



一酸化炭素中毒の危険性

自動車が雪に埋もれたときにエンジンをかけ続けると排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性が生じます。埋もれる深さがあるほど危険です。

エンジンをかけるときは

暖房などでやむを得ずエンジンをかけるときには、排気管出口を確実に大気へ開放し、追加の降雪や吹きだまりによる再埋没に注意しましょう。



窓を開けていても安全とは言えません

風向きや窓の開け方などの条件によっては、窓を開けていても閉めているときより一酸化炭素中毒の危険性が高くなることもあります。

詳しくは、総務課 防災係まで。